

騒音に対する住民意識調査（その1）

庄司 匡範 末岡 伸一

要 旨

幹線道路沿道、新幹線鉄道沿線、在来線鉄道沿線、羽田空港周辺、調布飛行場周辺、横田基地周辺及び閑静な地域（専ら住居の用に供される地域）において、騒音に対する住民意識調査を956件実施した。

身近な存在である道路交通騒音に悩まされている割合は、幹線道路沿道において3割を超えた。長年に渡って騒音対策が行われてきた羽田空港周辺については、内陸側離陸及び悪天候時の北側着陸等の特殊な場合を除けば、最大騒音レベル $L_{AS\ max}70$ を超える航空機騒音は観測されず、航空機騒音に対してうるさいと感じている割合は2割未満であった。一方、日常的に最大騒音レベル $L_{AS\ max}70$ を超える航空機騒音に暴露されている横田基地周辺については、航空機騒音に対してうるさいと感じている割合は6割を超え、さらに航空機騒音に悩まされている割合は7割を超えた。

キーワード：住民意識調査、道路交通騒音、鉄道騒音、航空機騒音、 $L_{AS\ max}$

Social response investigation for noise (1)

SHOJI Masanori, SUEOKA Shinichi

Summary

We carried out 956 social response investigation for noise around Haneda airport, Tyohu airport, Yokota military airport, Shinkansen line, old railroad line, trunk road and quiet area.

Around Haneda airport, had been taken measures to cope with aircraft noise for long time, the aircraft noise over $L_{AS\ max} 70$ was not observed. The ratio of feeling noisy to aircraft noise was under 20%. Otherwise around Yokota military airport, the aircraft noise over $L_{AS\ max} 70$ was generally observed. The ratio of feeling noisy to aircraft noise was over 60%. Still more, the ratio of suffering from aircraft noise was over 70%. Besides around trunk road, the ratio of suffering from traffic noise was over 30%.

1 はじめに

騒音の評価手法等の在り方については、平成10年5月の中央環境審議会答申において「特に我が国の実態に基づく知見の充実に努めることが必要である」と指摘されている。生活実態に合わせたきめ細かい対応を行うためには、騒音の性状・居住実態等に応じた騒音影響に関する知見を充実させることが必要である

が、騒音に対する住民意識に関する我が国独自のデータは殆ど存在しない。そこで、騒音に対する住民意識に関する知見を収集するために、騒音に暴露されている地域を対象に住民アノイアンス（不快感）に関する意識調査を実施した。本論文ではその調査結果を報告し、この結果を用いたドーズ・レスポンスに関する考察をその2において報告する。

2 意識調査方法

(1) 調査対象地域

道路交通騒音、鉄道騒音、航空機騒音に暴露されている比較的居住者の多い地域¹⁻³⁾を選定した。調査地域の詳細を表1に示す。

表1 調査対象地域

区分		調査地域		調査数
道路	幹線道路	区部	環状八号線沿道	33
		多摩地域	環状七号線沿道	30
	閑静な地域	府中街道沿道	34	
鉄道	新幹線	東海道	呑川周辺	62
		東北	浮間東町会会館周辺	67
	在来線	埼京線	石神井川周辺周辺	30
		中央線	緑川第一公園周辺	31
			国立療養所東京病院周辺	31
空港	羽田空港		八潮パークタウン	66
			大森第四小学校周辺	66
			新仲七会館周辺	62
			臨海町二丁目児童公園周辺	63
	調布飛行場		野川周辺	66
			調布第一浄水場周辺	63
	横田基地		石川市民センター周辺	32
			昭島市役所周辺	62
		堀向自治集会所周辺	65	
		箱根ヶ崎駅周辺	58	
		箱根ヶ崎浄水場周辺	35	
				956

(2) アンケート調査

調査員による訪問面接方式で行い、質問用紙を示して回答を求めた。その際、回答者自身についての質問及び調査員による回答住戸についての記録を行い、解析の資料とした。アンケート調査期間は平成15年1月14日から25日の日中である。

アンケート設問は多岐に渡っているため、全容は筆者らのまとめた報告書³⁾を参照するものとし、本論文では表2に示すキー設問に限って報告する。なお、アンケート設問の作成にあたっては後記の文献⁴⁻⁵⁾を参考とした。

表2 アンケート設問

問2	あなたは現在お住まいの地域の生活環境にどの程度満足していますか。項目ごとに該当する番号を○で囲んでください。 (静けさ) 満足 比較的満足 どちらとも言えない 多少不満 不満
問3	この1年あまりを振り返って、あなたは自宅で、音で悩まされたり、うるさいと感じているでしょうか。該当する番号を○で囲んでください。 (道路の自動車の音) 聞こえない まったくうるさくない それほどうるさくない 多少うるさい だいぶうるさい 非常にうるさい (飛行機の離着陸音) ……以下続く
問4-1	問3に挙げた音の中で、あなたが最も悩まされるのは、どの音ですか。該当する音の番号を()内にご記入下さい。悩まされていない音がない場合は、9を記入し問5に進んで下さい。

(3) 騒音実態調査

調査地域内の数地点で同時測定を行い、その結果を利用して個々の回答住戸の騒音暴露量を推定した。騒音

実態調査期間は平成15年9月から平成16年5月のうち60日程度である。なお、測定機器は普通騒音計及び精密騒音計を使用した。

3 意識調査結果

3-1 道路沿道

(1) 地域概要

都内においては、沿道法に基づく対策として、バッファビルへの助成、建築制限条例、防音工事助成等が行われており、これらの対策が実施された環状七号線沿道及び環状八号線沿道、また比較対照の意味から一般の幹線道路として府中街道沿道、並びに交通量の少ない閑静な地域の道路として国立療養所東京病院周辺を選定した。

(2) 騒音実態調査結果

道路沿道の調査地域の騒音暴露量を表3に示す。なお、表中の距離は道路端からの距離を示す。

表3 道路沿道の騒音暴露量

道路	距離	LAeq	LAeq,d	LAeq,n	Lden	Ldn	騒騒音	
		dB	dB	dB	dB	dB	dB	
幹線道路	環状八号線沿道	0m	74.6	74.8	74.2	80.6	80.3	43.2
		45m	51.2	51.4	50.9	57.3	57.0	43.2
		84m	47.3	47.4	47.0	53.4	53.1	43.2
	環状七号線沿道	0m	75.4	75.3	75.5	81.8	81.5	42.9
		51m	56.0	55.9	56.1	62.4	62.1	42.9
		119m	48.1	48.0	48.1	54.4	54.1	42.9
府中街道沿道	東側	0m	73.1	73.6	71.8	78.6	78.2	40.8
		31m	54.2	54.7	53.0	59.8	59.4	40.8
		100m	40.8	40.8	40.8	47.1	46.8	40.8
	西側	0m	73.1	73.6	71.8	78.6	78.2	36.4
		28m	65.3	65.9	64.1	70.8	70.4	36.4
		60m	39.9	40.1	39.2	45.7	45.4	36.4
閑静な地域	国立療養所東京病院周辺	0m	61.0	62.7	42.4	62.6	61.1	41.6
		14m	44.6	45.9	39.6	48.2	47.5	41.6
		80m	43.3	44.3	39.5	47.4	46.8	41.6
	西側	0m	67.8	69.4	58.1	70.1	69.0	41.7
		26m	53.5	55.1	44.2	55.9	54.8	41.7
		63m	45.3	46.8	37.7	48.1	47.1	41.7

(3) アンケート調査結果

① 生活環境の静けさに対する満足度

生活環境の静けさに対して不満を感じている(「多少不満」及び「不満」、以下同様)割合は、環状八号線沿道で42%、環状七号線沿道で57%、府中街道沿道で44%、国立療養所東京病院周辺で13%であり、不満を感じている割合は、幹線道路沿道ではほぼ同程度であった(図1)。

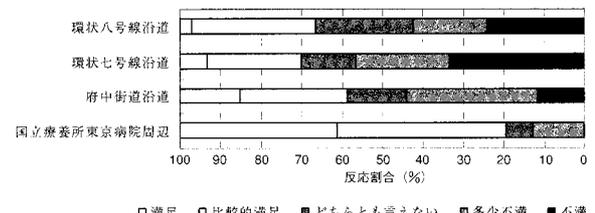


図1 生活環境の静けさに対する満足度(道路沿道)

② 様々な音に対する意識

様々な音に対する意識結果を図2に示す。環状八号線沿道及び環状七号線沿道については、道路の自動車の音に対してうるさい(「だいぶうるさい」及び「非常にうるさい」、以下同様)と感じている傾向が強いことから、当地域の音環境に影響を与える主要因は道路交通騒音であると言える。府中街道沿道及び国立療養所東京病院周辺については、道路の自動車の音に対してうるさいと感じている傾向はあるものの、それ程はっきりとは現れていないことから、道路交通騒音だけが当地域の音環境に大きな影響を与えているとはいえない。

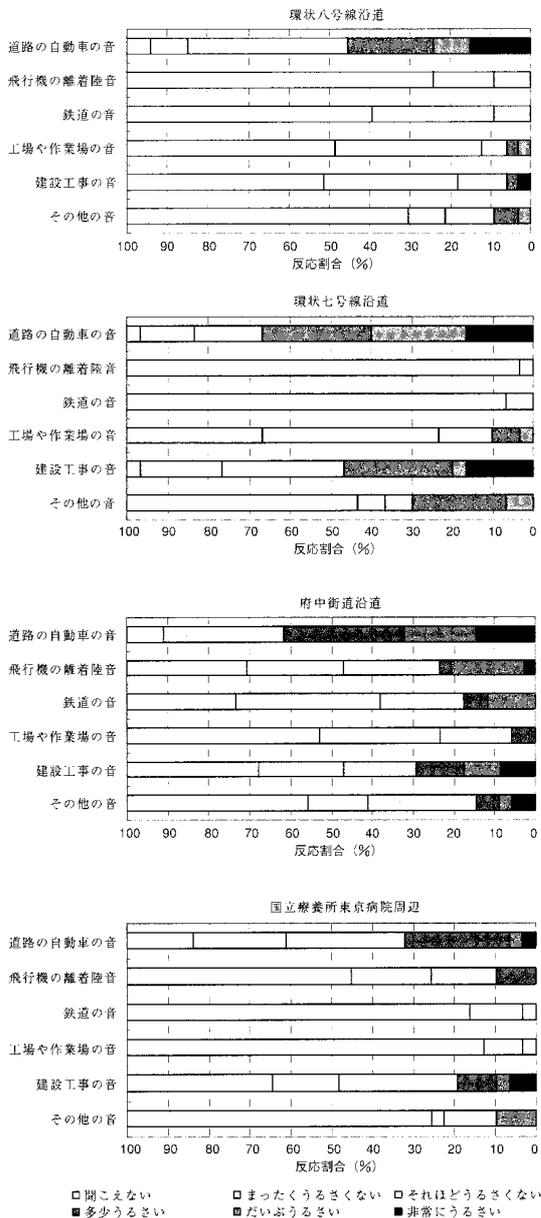


図2 様々な音に対する意識 (道路沿道)

③ 最も悩まされている騒音

最も悩まされている騒音についての結果を図3に示す。悩まされている騒音は特になしとの意見が多く見られるが、幹線道路沿道については、3割以上を道路の自動車の音が占めていた。

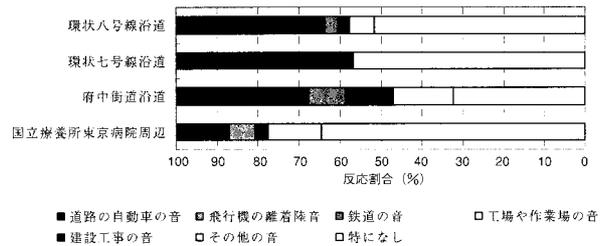


図3 最も悩まされている騒音 (道路沿道)

3-2 新幹線沿線

(1) 地域概要

東京都内には、東海道新幹線、東北新幹線等の多くの新幹線鉄道が乗り入れており、従来から環境対策が実施されてきた。特に、都内ではスピードを上げないように運行されており、防音壁等の環境対策も行われているため、いわゆる新幹線独特の高速走行時の騒音はほとんど観測されない。

(2) 騒音実態調査結果

新幹線沿線の調査地域の騒音暴露量を表4に示す。なお、表中の距離は最も近い新幹線軌道からの距離を示す。

表4 新幹線沿線の騒音暴露量

	距離	L _{Asmax}	L _{Aeq}	L _{Aeq,d}	L _{Aeq,n}	L _{den}	L _{dn}	暗騒音
呑川周辺	15m	66.7	53.5	55.0	46.8	56.3	55.7	42.6
	46m	52.4	44.2	45.2	40.9	47.1	48.0	42.6
	66m	57.5	46.3	47.5	42.1	49.3	49.6	42.6
浮間東町会館周辺	15m	70.5	59.4	60.7	54.5	63.1	62.4	45.4
	44m	65.0	53.5	54.7	48.7	57.2	56.5	45.4
	90m	58.6	49.3	50.5	44.8	53.2	52.5	45.4

(3) アンケート調査結果

① 生活環境の静けさに対する満足度

生活環境の静けさに対して不満を感じている割合は、呑川周辺で39%、浮間東町会館周辺で26%であり、呑川周辺の方が不満を感じている傾向が多少強いことが分かった (図4)。

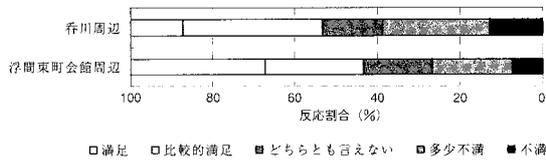


図4 生活環境の静けさに対する満足度（新幹線沿線）

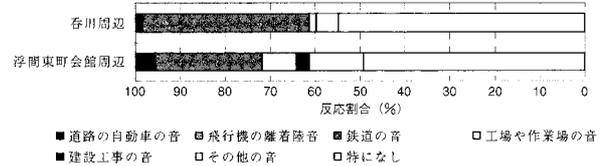


図6 最も悩まされている騒音（新幹線沿線）

② 様々な音に対する意識

様々な音に対する意識結果を図5に示す。呑川周辺については、鉄道の音に対してうるさいと感じている傾向が非常に強いことから、当地域の音環境に影響を与える主要因は鉄道騒音であると言える。浮間東町会館周辺については、鉄道の音に対してうるさいと感じている傾向はあるものの、それ程はつきりとは現れていないことから、鉄道騒音だけが当地域の音環境に大きな影響を与えているとは言い難い。

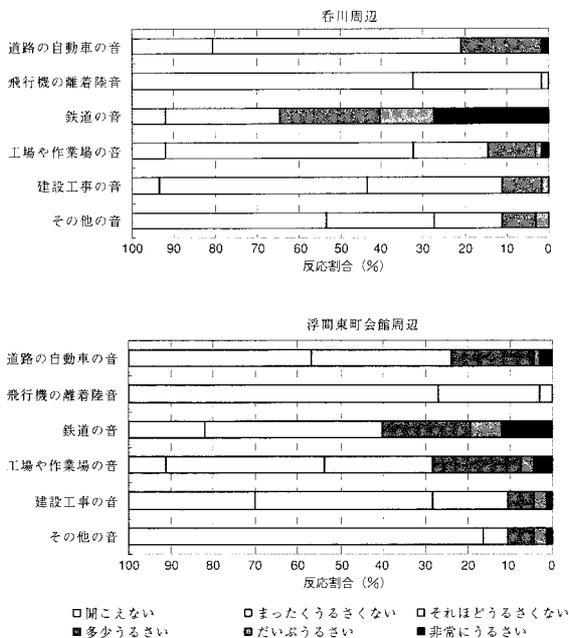


図5 様々な音に対する意識（新幹線沿線）

③ 最も悩まされている騒音

最も悩まされている騒音についての結果を図6に示す。悩まされている騒音は特にないと意見が多く見られるが、2割以上を鉄道の音が占めていた。鉄道騒音に悩まされている割合は、呑川周辺で37%、浮間東町会館周辺で24%であり、先の鉄道騒音に対してうるさいと感じている割合と同程度であった。

3-3 在来線沿線

(1) 地域概要

都内には多くの在来鉄道が設置されており、ほとんどが通勤通学用に利用されている。いずれの路線においても、ロングレールを中心として重量レールが使われており、道床のメンテナンスも適切に実施されており軌道は良好に保たれている。車両には、比較的長編成の最新型の軽量車両が次々と投入されており、在来鉄道の利用が多いことから地域住民の鉄道への理解度は高いと思われる。ただし、都内の渋滞対策として、踏切解消のため高架化工事等が進んでおり、日照、騒音、振動等の影響を問題として、住民による訴訟が提起されている場所もあるため、高架化工事地区以外で、貨物列車の運行がない通勤通学用の平面区間の鉄道沿線を選定した。

(2) 騒音実態調査結果

在来線沿線の調査地域の騒音暴露量を表5に示す。なお、表中の距離は最も近い在来線軌道からの距離を示す。

表5 在来線沿線の騒音暴露量

	距離	L _{Asmax}	L _{Aeq}	L _{Aeq,d}	L _{Aeq,n}	L _{den}	L _{dn}	暗騒音
石神井川周辺	36m	67.0	53.2	54.3	49.4	57.3	56.7	47.0
	60m	62.1	50.2	51.4	46.1	54.3	53.6	47.0
	100m	54.4	48.2	49.4	43.6	52.0	51.3	47.0
緑川第一公園周辺	21m	74.6	60.3	61.5	55.5	64.1	63.3	39.5
	41m	66.1	52.1	53.3	47.1	55.8	55.0	39.5
	123m	47.6	40.6	41.4	38.5	45.6	45.1	39.5

(3) アンケート調査結果

① 生活環境の静けさに対する満足度

生活環境の静けさに対して不満を感じている割合は、石神井川周辺で17%、緑川第一公園周辺で39%であり、緑川第一公園周辺の方が不満を感じている傾向が多少強いことが分かった（図7）。

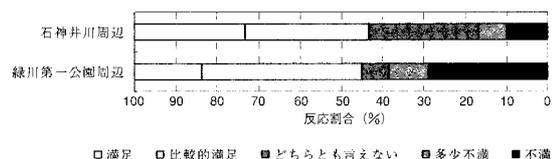


図7 生活環境の静けさに対する満足度（在来線沿線）

② 様々な音に対する意識

様々な音に対する意識結果を図8に示す。石神井川周辺については、鉄道の音と同程度、道路の自動車の音に対してうるさいと感じていることから、鉄道騒音だけが当地域の音環境に大きな影響を与えているとは言い難い。緑川第一公園周辺については、鉄道の音に対してうるさいと感じている傾向が強いことから、当地域の音環境に影響を与える主要因は鉄道騒音であると言える。

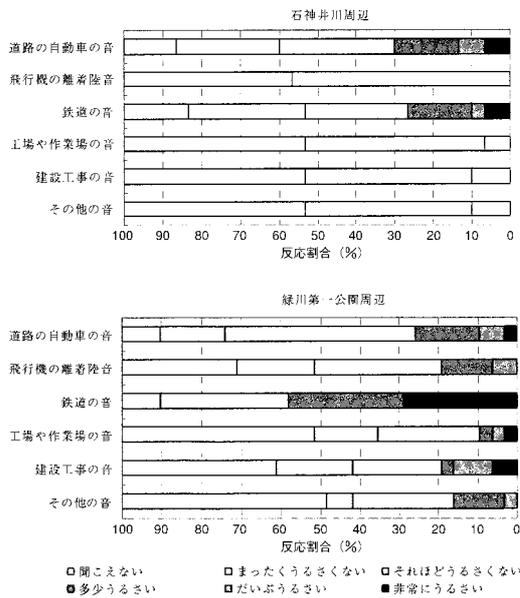


図8 様々な音に対する意識 (在来線沿線)

③ 最も悩まされている騒音

最も悩まされている騒音についての結果を図9に示す。悩まされている騒音は特にないと意見が多く見られるが、緑川第一公園周辺については、3割以上を鉄道の音が占めていた。鉄道騒音に悩まされている割合は、石神井川周辺で13%、緑川第一公園周辺で32%であり、先の鉄道騒音に対してうるさいと感じている割合と同程度であった。

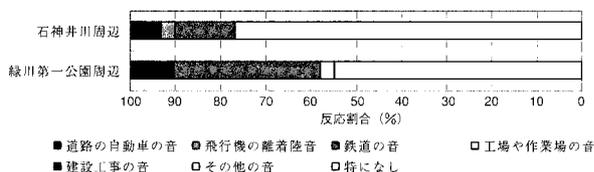


図9 最も悩まされている騒音 (在来線沿線)

3-4 羽田空港周辺

(1) 地域概要

羽田空港 (東京国際空港) は、A・B・Cの3本の滑走路で運用され、1日に約640便の離着陸がある我が国最大の空港である。羽田空港周辺の騒音については、沖合い移転、低騒音機の導入等の対策により、最近の状況は著しく改善されており、併せてオフィスビルや集合住宅への立替が進んでおり、必ずしも防音性能に優れていない日本式家屋の住居は減少している。そのため、顕著な航空機騒音に暴露されている住居地域はきわめて少なくなっている。結果的には、内陸側に離陸する通称ハミングバード及び悪天候時の北側着陸の際に江戸川区 (臨海町二丁目児童公園周辺) 上空を通過する場合を除いて、最大騒音レベル (以下、 L_{ASmax} とする) 70を超える航空機騒音は観測されなかった。

(2) 騒音実態調査結果

羽田空港周辺で観測される航空機騒音の種類、 L_{ASmax} 及び一日平均の航空機数を表6に示す。また、調査地域の騒音暴露量を表7に示す。

表6 羽田空港周辺で観測される航空機騒音

	北側離陸		北側着陸		内陸側離陸		南側離陸	
	L_{ASmax}	機数	L_{ASmax}	機数	L_{ASmax}	機数	L_{ASmax}	機数
八潮パークタウン	59.1	206	61.0	98	-	-	58.2	-
大森第四小学校周辺	-	-	-	-	77.0	3	58.2	171
新仲七会館周辺	58.2	206	-	-	77.1	3	64.2	171
臨海町二丁目児童公園周辺	-	-	72.0	4	-	-	-	-

表7 羽田空港周辺の騒音暴露量

	WECPNL	L_{Aeq}	$L_{Aeq,d}$	$L_{Aeq,n}$	Lden	Ldn	暗騒音
八潮パークタウン	57.6	53.2	54.3	48.9	57.1	56.4	52.1
大森第四小学校周辺	57.5	48.1	49.5	40.7	50.9	50.0	46.1
新仲七会館周辺	61.2	50.4	51.9	42.5	53.1	52.1	46.2
臨海町二丁目児童公園周辺	50.8	50.5	51.6	47.0	54.8	54.2	50.2

(3) アンケート調査結果

① 生活環境の静けさに対する満足度

生活環境の静けさに対して不満を感じている割合は、八潮パークタウンで5%、大森第四小学校周辺で23%、新仲七会館周辺で16%、臨海町二丁目児童公園周辺で30%であり、八潮パークタウンでは、それ以外の地域に比べ不満を感じている傾向が弱いことが分かった (図10)。

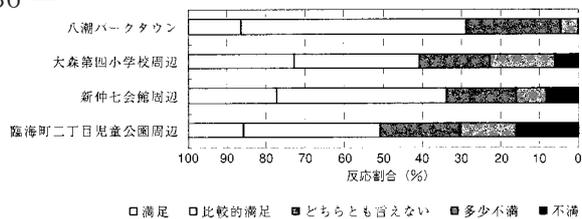


図10 生活環境の静けさに対する満足度 (羽田空港周辺)

② 様々な音に対する意識

様々な音に対する意識結果を図11に示す。新仲七会館周辺については、航空機の離着陸音に対してうるさいと感じている傾向が強いことから、当地域の音環境に影響を与える主要因は航空機騒音であると言える。しかし、それ以外の地域では、航空機の離着陸音よりも、道路の自動車の音またはその他の音に対してうるさいと感じている傾向が見られることから、航空機騒音だけが当地域の音環境に大きな影響を与えているとは言い難い。なお、その他の音には、緊急車両の音、バイクや暴走族の音、保育園や公園等からの子供の声、隣人の生活音、カラスの鳴き声等が挙げられた。

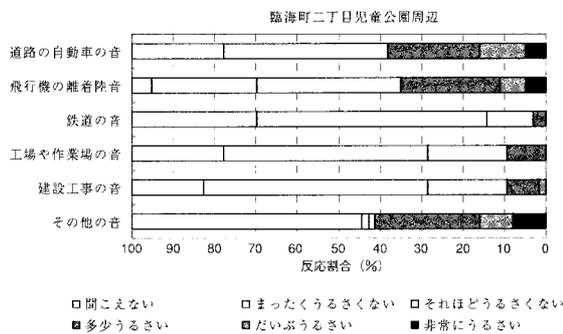


図11 様々な音に対する意識 (羽田空港周辺)

③ 最も悩まされている騒音

最も悩まされている騒音についての結果を図12に示す。悩まされている騒音は特にないと意見が大部分を占めており、飛行機の離着陸音が占める割合は僅かであった。先の航空機騒音に対してうるさいと感じている傾向が強かった新仲七会館周辺を例に挙げると、航空機騒音に悩まされているとの意見は僅か3%である。これより羽田空港周辺については、航空機騒音を顕著に認識しているとは言い難い。

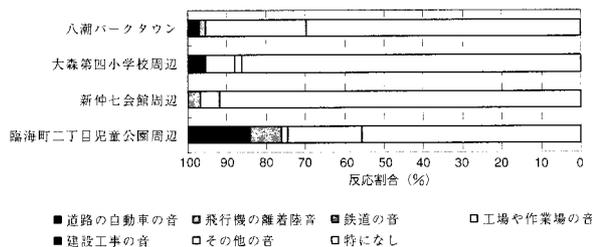
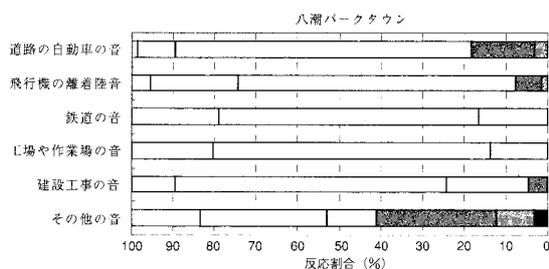
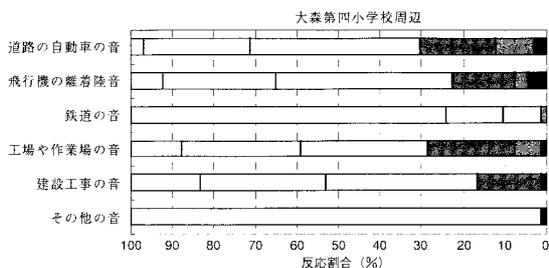


図12 最も悩まされている騒音 (羽田空港周辺)



3-5 調布飛行場周辺

(1) 地域概要

調布飛行場は、定期便として1日18便の離島航空便が運用される他、セスナ機等の自家用機が有視界飛行により利用されている。離着陸については、住宅地の多い北側において相対的に騒音の小さい着陸を中心とし、離陸は南側とする運用が行われている。また、機数は少ないが米軍横田基地を利用する軍用機等の騒音も観測されている。なお、野川公園周辺が飛行場の北側に、調布第一浄水場周辺が飛行場の南側に位置している。

(2) 騒音実態調査結果

調布飛行場周辺の調査地域の騒音暴露量を表8に示す。表中の地点は調査地域の東西（航路垂直）方向の

両端を示す。

表 8 調布飛行場周辺の騒音暴露量

	地点	L _{Asmax}	WECPNL	L _{Aeq}	L _{Aeq,d}	L _{Aeq,n}	L _{den}	L _{dn}	暗騒音
野川公園周辺	西端	82.0	68.3	53.5	55.2	49.7	54.2	54.2	44.1
	東端	74.1	60.7	47.9	49.3	40.7	49.8	49.8	44.1
調布第一浄水場周辺	西端	85.6	72.6	58.2	59.9	42.5	58.5	58.5	50.9
	東端	75.6	59.7	51.7	53.3	42.5	53.1	53.1	50.9

(3) アンケート調査結果

① 生活環境の静けさに対する満足度

生活環境の静けさに対して不満を感じている割合は、野川公園周辺で15%、調布第一浄水場周辺で14%であり、不満を感じている割合は同程度であった(図13)。

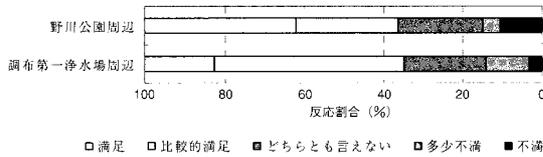


図13 生活環境の静けさに対する満足度(調布飛行場周辺)

② 様々な音に対する意識

様々な音に対する意識結果を図14に示す。野川公園周辺については、航空機の離着陸音と同程度、道路の自動車の音に対してうるさいと感じていることから、航空機騒音だけが当地域の音環境に大きな影響を与えているとは言い難い。調布第一浄水場周辺については、航空機の離着陸音に対してうるさいと感じている傾向が強いことから、当地域の音環境に影響を与える主要因は航空機騒音であると言える。

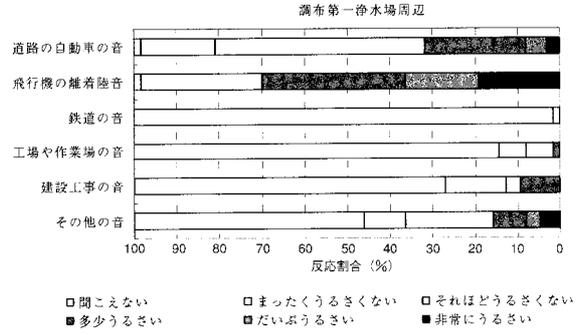
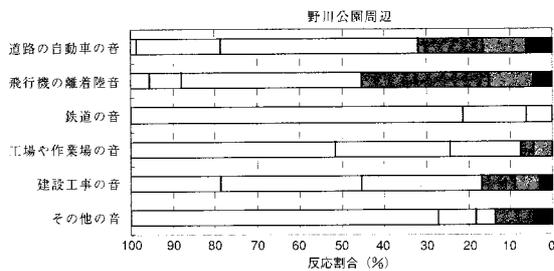


図14 様々な音に対する意識(調布飛行場周辺)

③ 最も悩まされている騒音

最も悩まされている騒音についての結果を図15に示す。悩まされている騒音は特になしとの意見が多く見られるが、約4分の1を航空機の離着陸音が占めていた。先の航空機騒音に対してうるさいと感じている割合は、野川公園周辺で15%、調布第一浄水場周辺で37%と地域差が見られたが、航空機騒音に悩まされている割合には地域差は見られなかった。

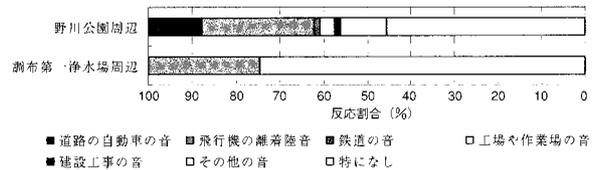


図15 最も悩まされている騒音(調布飛行場周辺)

3-6 横田基地周辺

(1) 地域概要

東京都の福生市、立川市、昭島市、武蔵村山市、羽村市、瑞穂町の5市1町にまたがる米軍の基地であり、面積714haに3350mの滑走路を有し、年間約2万回の発着がある飛行場である。最近の飛行機種は、C-130E、C-21Aなどであり、従来のC-5、C-9等の大型機の飛行は少なくなってきている。また、厚木飛行場の代替であるNLP(夜間離着陸訓練)については、最近はほとんど行われていない。この横田基地への飛行コース下では徐々に宅地化が進んでいるが、ベトナム戦争当時に比べれば飛行回数や騒音レベルが大きく低下している。航空機騒音としては、この基地を使った比較的小型の機種による訓練飛行の騒音が主であるが、時々大型輸送機が大きな騒音を発生させている。なお、基地周辺の一部住民からは、航空機騒音が甚大であるとして、損害賠償及び飛行差止めを求める横田

基地騒音訴訟が提起されており、それら地域は対象から除いた。

なお、石川市民センター周辺、昭島市役所周辺、堀向自治集会所周辺が基地の南側遠方順に、箱根ヶ崎駅周辺、箱根ヶ崎浄水場周辺が基地の北側近傍順に位置している。

(2) 騒音実態調査結果

横田基地周辺の調査地域の騒音暴露量を表9に示す。表中の地点は調査地域の東西（航路垂直）方向の両端を示す。

表9 横田基地周辺の騒音暴露量

地点	L _{Asmax}	WECPNL	L _{Aeq}	L _{Aeq,d}	L _{Aeq,n}	L _{den}	L _{dn}	暗騒音
石川市民センター周辺	78.1	69.5	51.1	51.9	48.6	55.4	55.4	38.8
昭島市役所周辺	87.2	76.7	58.4	60.0	48.7	60.6	59.6	38.8
堀向自治集会所周辺	88.4	77.9	59.3	60.9	49.9	61.5	60.6	38.8
箱根ヶ崎駅周辺	95.7	85.2	64.8	66.4	55.0	66.9	66.0	38.8
箱根ヶ崎浄水場周辺	94.0	84.0	64.5	66.1	55.1	66.7	65.8	40.3
	81.7	71.7	56.2	56.7	46.2	57.4	56.5	40.3

(3) アンケート調査結果

① 生活環境の静けさに対する満足度

生活環境の静けさに対して不満を感じている割合は、堀向自治集会所周辺で85%、箱根ヶ崎駅周辺で84%と非常に大きく、次いで、箱根ヶ崎浄水場周辺で54%、昭島市役所周辺で26%、石川市民センター周辺で25%となっている。羽田空港周辺及び調布飛行場周に比べ、非常に不満を感じている傾向が強いことが分かった（図16）。

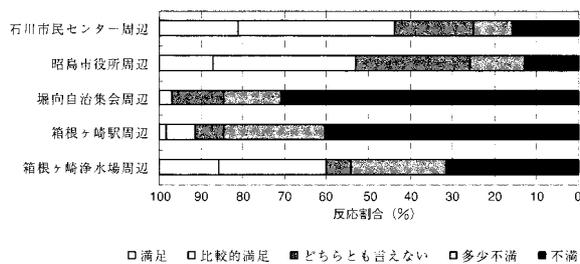


図16 生活環境の静けさに対する満足度（横田基地周辺）

② 様々な音に対する意識

様々な音に対する意識結果を図17に示す。航空機の離着陸音に対してうるさいと感じている傾向が非常に強いことから、当地域の音環境に影響を与える主要因は航空機騒音であると言える。

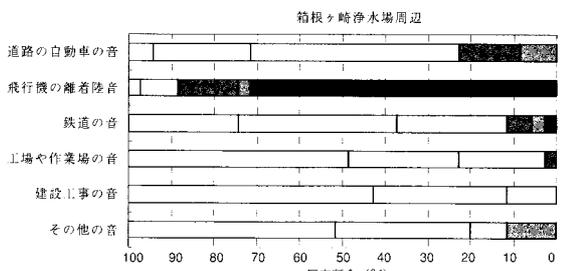
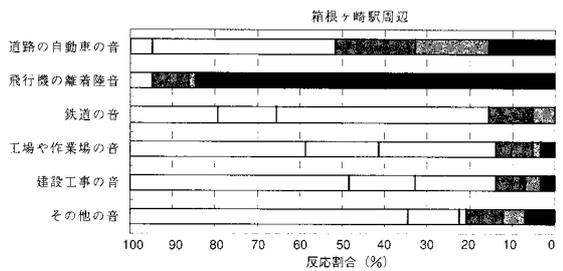
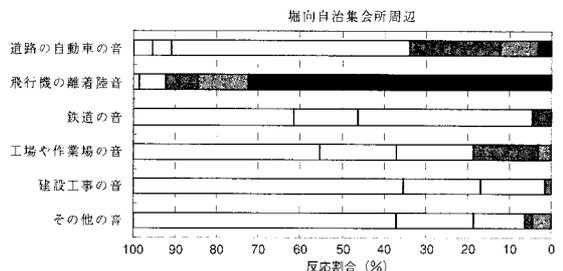
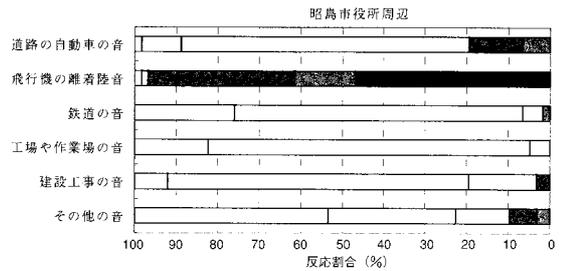
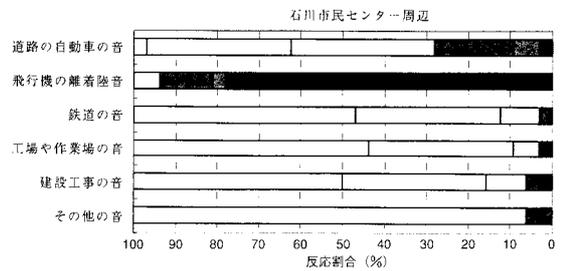


図17 様々な音に対する意識（横田基地周辺）

③ 最も悩まされている騒音

最も悩まされている騒音についての結果を図18に示す。航空機の離着陸音に悩まされているとの意見が大部分を占めており、航空機騒音を顕著に認識してい

ると言える。

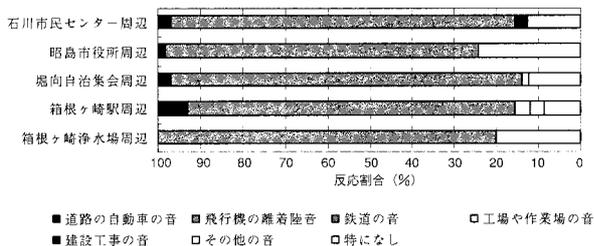


図18 最も悩まされている騒音（横田基地周辺）

4 まとめ

今回の騒音に対する住民意識調査を通じて、都内における騒音実態について以下の知見を得た。

- (1) 幹線道路沿道では、道路交通騒音に悩まされている割合は、全ての調査地域で3割を超えた。
- (2) 新幹線沿線及び在来線沿線では、鉄道騒音に対してうるさいと感じている割合と、鉄道騒音に悩まされている割合は、ほぼ同じであった。
- (3) 羽田空港周辺では、内陸側離陸及び悪天候時の北側着陸等の特殊な場合を除けば $L_{AS\ max70}$ を超える航空機騒音は観測されず、航空機騒音に対してうるさいと感じている割合は、全ての調査地域で2割未満であった。これは、空港の沖合い移転、低騒音機の導入等の対策の効果と考えられる。
- (4) 横田基地周辺では、日常的に $L_{AS\ max70}$ を超える騒音に暴露されており、航空機騒音に対してうるさいと感じている割合は、全ての調査地域で6割を超えた。さらに、航空機騒音に悩まされている割合は、全ての調査地域で7割を超えた。

備考

この研究は、一部については環境省委託研究費にて実施した。

参考文献

- 1) 東京都環境局：平成14年度航空機騒音調査結果報告書
- 2) 東京都環境局：平成14年度新幹線鉄道騒音振動調査結果報告書
- 3) 東京都環境局：平成14年度道路交通騒音振動調査結果報告書
- 4) 東京都環境科学研究所：平成15年度騒音に対する住民意識調査結果報告書

- 5) 社団法人 日本騒音制御工学会：騒音による影響の評価に関する総合的研究
- 6) 東京都衛生局：騒音振動健康影響調査報告書